

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成 26 年度から「地域産業連携重点型」工科高校として再出発した。インターンシップや地域連携等に重点を置き、また、産業創造系、機械系、電気系がもつ特徴を生かし、本校がこれまで培ってきた伝統と教育活動を踏まえたものづくり教育を中心とした工業教育を行う。

校訓として、「誠実・剛毅」「自主・創造」「敬愛・協力」を掲げ、健全な生徒の育成を図る。

本校のミッション（使命）は、「地域社会のリーダーとなり得る人格を兼ね備えた、ものづくりのスペシャリストの育成」である。『「地域の宝」となる！』というスローガン（標語）を掲げ、経済産業省が提唱する『社会人基礎力』の育成とともに、優れた工業技術や創造性を有する人材を育成する。

- 1 国際的な工業人として人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人間性と社会の基本的なルール・マナーを身に付けた、工業のスペシャリストを育成する学校。
- 2 学校行事や部活動への積極的な参加を通して、礼儀正しい挨拶や規範意識などの社会性を身に付けた生徒を育成する学校。
- 3 地域の「ものづくり教育」の発信源となり、地域に根ざし、保護者や地域から『地域の宝』と信頼される学校。
- 4 生徒から『入学してよかった』『学んでよかった』『卒業してよかった』と言われる学校。

2 中期的目標

1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進

- (1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。
- (2) 少人数授業等を導入（国語・数学・英語・体育・家庭）し、「魅力のある授業」・「わかる授業」をめざし、授業アンケート結果等も踏まえて、教員の授業力の向上を図る。
- (3) 授業公開・研究授業などを充実させ、授業内容や指導方法の改善を図る。授業公開週間を活用し、全教員が一度は授業見学に参加するよう指導する。
- (4) カウンセリングマインドを有し、生徒が気軽に相談できる教員の体制づくりをめざす。

※授業公開週間を年 2 回実施、3 教科（国・数・英）の補習を 130 回以上、入学満足度を 60%以上、登校満足度を 60%以上、授業理解度を 70%以上、授業見学への教員の参加数 220 回以上とし、平成 31 年度には、授業公開週間を年 3 回実施、3 教科（国・数・英）の補習を 150 回以上、入学満足度を 70%以上、登校満足度を 70%以上、授業理解度を 80%以上、授業見学への教員の参加数 250 回以上とする。

（3 教科の補習： H26 182 回、H27 200 回、H28 137 回）

（入学満足度： H26 60.8%、H27 58.6%、H28 64.9%）

（登校満足度： H26 54.4%、H27 53.5%、H28 62.3%）

（授業理解度： H26 69.2%、H27 66.8%、H28 73.1%）

（授業見学への教員の参加数： H28 210 回）

2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進

- (1) 教育の質の向上、質の保証が求められる中、工科高校における新たな教育を探求し、「平成 27 年度学校経営推進費事業」により導入した計測機器等を活用し、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。
- (2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。
- (3) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させて、「魅力のある授業」・「わかる授業」の推進を図る。

※企業見学は 2 年生全員参加、資格取得者数を 700 名以上、コンテスト応募件数 30 件以上、インターンシップ参加者を 90 名以上、就職 1 次合格者を 75%以上で工科高校 3 位以内とし、平成 31 年度には、企業見学は 2 年生全員参加、資格取得者数を 750 名以上、コンテスト応募件数 50 件以上、インターンシップ参加者を就職希望者の 1/2 以上、就職 1 次合格者を 80%以上で工科高校 2 位以内とする。

（資格取得者数： H26 858 名、H27 759 名、H28 804 名）

（インターンシップ参加者： H26 80 名、H27 106 名、H28 118 名）

（コンテスト応募件数： H28 30 件）

（就職 1 次合格率： H26 87.4%【工科高校第 1 位】、H27 83.9%【工科高校第 2 位】、H28 87.8%【工科高校第 1 位】）

3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成

- (1) 家庭と連携した望ましい基本的生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。
- (2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。
- (3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。
- (4) 生徒課題の早期発見のため、家庭や中学校との連携を深め、中途退学者の減少を図る。

※遅刻件数を前年度比 10%減、クラブ加入率を 50%以上、退学率を 2%未満とし、平成 31 年度には、遅刻件数を 4/1 現在の在籍者数以下の件数、クラブ加入率を 55%以上、退学率を 2%未満とする。

（遅刻回数： H26 1,489 件【前年度比 1.8%減】、H27 948 件【前年度比 36.3%減】、H28 861 件【前年度比 9.2%減】）

（クラブ加入率： H26 44.6%、H27 50.6%、H28 50.1%）

（退学率： H26 2.46%、H27 1.63%、H28 3.30%）

（転退学者： H26 転学 15 名・退学 20 名、H27 転学 30 名・退学 13 名、H28 転学 12 名・退学 26 名）

4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり

- (1) 入試状況を踏まえた中学校訪問や学校説明会を実施し、離職率調査を踏まえた企業訪問を行う。
- (2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。
- (3) 校内の ICT 化を推進し、効率的、効果的な情報発信をおこなう。

※企業連携 15 社以上、離職率 35%未満、学校 P R を 8 回以上、学校 Web ページの更新を 80 回以上とし、平成 31 年度には、企業連携 20 社以上、離職率 30%未満、学校 P R を 10 回以上、学校 Web ページの更新を 100 回以上とする。

（卒業後 3 年の離職率： H26 本校調査 [H23.3 卒] 35.1%、H27 本校調査 [H24.3 卒] 32.0%、H28 本校調査 [H25.3 卒] 30.7%）

（学校 Web ページの更新： H26 74 回、H27 85 回、H28 83 回）

（課題研究発表会の企業・中学・保護者等の来場者数： H26 61 名、H27 59 名、H28 92 名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】 ○全体を通して、生徒の意識はほぼすべての項目で大きく改善をしている。一方、保護者はおおむね横ばい、教職員は項目によって変動が大きく、否定的な回答も増加している。 この中で、生徒の評価の向上はもっとも重要であり、今後その思いを保護者に伝える方策の検討を行う。また、教員の反応は問題意識の芽生えとも取れ、これを学校改善に生かしていく必要がある。</p> <p>①生徒アンケート、②保護者アンケート、③教職員アンケート</p> <p>【総合的な項目】 ○総合的な項目においては、生徒の意識は大きく改善したが、一方、教職員においては大きく低下している。 ①生徒アンケートの結果は、好意的な回答が増加している。 ・「学校へ行くのが楽しい」68.1%（昨年度+5.8%） ・「この学校に入ってよかったと思う」72.0%（昨年度+7.1%） ②保護者アンケートの結果は、高い数値でおおむね横ばいであった。 ・「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」73.2%（昨年度-2.0%） ・「子どもを佐野工科に行かせて良かったと思う」92.2%（昨年度-0.6%） ③教職員アンケートの結果は、大きく後退しており、問題意識がある。 ・「教育活動全般において、生徒や保護者の願いにこたえている」64.7%（昨年度-22.5%）</p> <p>【学習指導等について】 ○学習指導に関する項目は、以下の結果であった。生徒の意識においては、全般を通し、良い傾向を示している。今後さらなる改善に向けて、教職員で高い数値（79.4%）を示している習熟度別授業の導入等の検討を行う。 ①以下の6項目全てで向上しており、授業改善等の効果がうかがえる。 ・「進路希望に応じた授業が選択できる」83.5%（昨年度+3.8%） ・「普通科目の授業はわかりやすい」75.8%（昨年度+4.0%） ・「専門科目の授業（座学）はわかりやすい」71.4%（昨年度+2.8%） ・「実験・実習などの授業はよく学習できている」81.6%（昨年度+2.8%） ・「家庭学習をしている」36.9%（昨年度+7.4%） ・「資格・検定の取得に向けて努力している」58.4%（昨年度+7.5%） ②低い数値で横ばいであり、改善の努力が必要である。 ・「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」58.8%（昨年度-0.1%） ③2項目とも微増しているが、低い数値であり、さらなる改善が必要。 ・「到達度の低い生徒に対する学習指導を、全校的課題として取り組んでいる」55.9%（昨年度+2.0%） ・「学習意欲の高い生徒に対する学習指導を個に応じた視点で工夫している」50.0%（昨年度+2.6%）</p> <p>【生徒指導等について】 ○生徒指導に関する項目は、生徒の意識において大幅な改善が見られた。厳しさの中にカウンセリングマインドを取り入れた指導を、より進めていく必要がある。 ①結果は大きく改善。生徒の教員に対する意識としては、信頼度が増加。 ・「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」81.8%（昨年質問項目なし） ・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」61.8%（昨年度+10.3%） ・「学校生活についての先生の指導は納得できる」67.6%（昨年度+10.1%） ②高い値で現状維持。保護者に対する信頼は一定維持できている。 ・「学校の生徒指導の方針に共感できる」81.0%（昨年度+0.3%） ・「学校は子どもに命を大切に心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」87.0%（昨年度-1.7%） ・「学校では、いじめや差別を許さず、厳しく指導している」86.9%（昨年度+1.4%） ③教員の意識としては、強く問題提議がなされており、対応が必要。 ・「生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている」73.5%（昨年度-18.6%） ・「教育相談体制が整備されており生徒は学級担任以外の教員とも相談できる」61.8%（昨年度-14.6%） ・「生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています」78.1%（昨年度-11.3%） ・「この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」44.1%（昨年度-3.3%）</p> <p>【その他の項目について】 ○進路指導に関する項目については、生徒は微増、保護者は高い数値で評価が維持されており、昨年度と大きな変化はない。しかし、教員内では満足度が低く、改善の必要性を訴えている。 ③「生徒一人ひとりが興味、関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」68.8%（昨年度-5.1%） ○保護者、教職員において、学校の情報提供に不満がある。大雨による休校時のことも影響している。方法、手段等を検討し、さらなる広報活動に努める必要がある。 ②「学校は教育情報について、提供の努力をしている」75.9%（昨年度-2.6%） ③「教育活動に必要な情報について、生徒や保護者の願いにこたえている」64.7%（昨年度-25.7%）</p> <p>【まとめ】 ○生徒の基本的な生活習慣（睡眠、朝食、学習）が不十分な現状を踏まえ、より丁寧できめ細やかな指導が求められている。 保護者においては、教育活動に対する興味、関心の高まりもあり、教育活動の発信について検討が必要と思われる。 また、教員において、「本校の工業教育は現状のままでよい。44.1%」など、工業教育そのものの方向性についても議論を加えていく必要がある。</p>	<p>第1回 (6/2)</p> <p>○就職1次合格率昨年度実績87.8%に対して目標数値が75%以上というのはやや低めではないか？ Ans. 合格率は経済状況にも影響される。ここ数年は好況で高い実績をあげているが、ベースとしてはこのあたりを想定している。</p> <p>○大阪府下全体の生徒数が減っているか？ Ans. 減ってきている。それに対応する形で高校の再編整備がおこなわれ募集定員が減少している。</p> <p>○工科高校9校の倍率はどれくらいか？ Ans. 約半数は定員割れをしている。大阪市立の工業高校を含め、工業系の学校は苦戦をしている。</p> <p>○大学などでは3年連続定員を割れば補助金減額などあったりするが、高校ではどうか？ Ans. 定員割れが3年続くと再編整備の対象となる。本校はこれに当たらないが、間違った認識を持たれている可能性がある。次年度1倍以上の倍率を確保することが本校の今年の最も重要な課題である。</p> <p>○子どもの将来のことを考えるとドイツのマイスター制度のように職人評価をするようなものがあればよい。高校でのものづくりに対する重要性に特化したものをPRする必要がある。</p> <p>○学校に入ればわかることも多いが、佐野工科高校のような学習環境や生徒の存在は産業界にとっては貴重でありがたいことである。</p> <p>○佐野工科は生活指導が厳しく、誤った認識を持たれている部分もあるが、入学して良さがわかる。 Ans. 本校卒業の多くのOBの方々を通じてのPR活動や保護者の皆様方の地域でのネットワークを通じた魅力発信もお願いしたいと思っている。</p> <p>○中学生保護者に対して進学面でも指定校推薦のPRをもっと活用してもいいのではないか？</p> <p>○中学生自身に対するPRにはどのようなものがあるのか？ Ans. 例えば生徒が広報大使になり、母校である中間校を訪問し、厳しくとも良いところだということを伝えるなどのイメージ戦略も考えていく必要がある。</p> <p>第2回 (11/24)</p> <p>○第1回で広報についての議論があったが、外部への宣伝はどのようにしているのか。 Ans. 夏休みの中学生対象のクラブ体験を行った。そのほかには学校説明会であるが、まずそこに来てくれるかが大きなハードルである。</p> <p>○新聞の記事などにより佐野工科の入賞や大会出場成績などでPRできるのでは。それらは工科生にとっても知恵や感性を育む良い経験である。周囲からの評価もやりがいにつながる。</p> <p>○文化祭のメニューはどのようなものがあるか。これらを各中学校に案内してはどうか。 Ans. メニューはクラスでは主に飲食模擬店やイベント、クラブ関係ではものづくりを活かした取組みもあります。現状はチケット招待制でフルオープンではないですが、その点も検討してみます。</p> <p>○7月には泉佐野の小中学校のPTAの方に学校を見学いただいた。他の地域の中学にも実施ができれば素晴らしいと思う。</p> <p>○第61回大阪府学生科学賞で「大阪府教育委員会賞」の「最優秀賞」は大変価値のある賞で受賞したのはホントにすごい事。もっとPRすべき。</p> <p>第3回 (2/23)</p> <p>○平成29年度学校経営計画・学校評価について、結果は学校としてどのようにとらえているのか。 Ans. 学校教育自己診断の結果等、及第点が取れていると考えている。</p> <p>○進路指導の報告で学力不足という言葉があるが、実際にどの程度であったか。教務部との連携も必要になるのでは。</p> <p>○クラブ加入率については何年も前より議論になっていた。1回だけ50%を超えたことを記憶しているが今回、下がっているのが気になる。遅刻回数が増えているのもいかがなものか。 Ans. 遅刻に関しては、ある特定の生徒が回数を増やしている場合もあるが、新たな取組みとして朝、始業前に登校呼び出すなど個別に指導している。</p> <p>○学校での情報が親には伝わっていない。遅刻は親として心配。PTAとしても、年一回でも朝の挨拶運動や就職面接で何かできればと思う。</p> <p>○昨今、マスコミで取り沙汰されている頭髪指導についてはどうか。 Ans. 指導規定はHPにも載せる方向で考えている。</p> <p>○生徒手帳に記載はしているか？ Ans. していない。新入生に対しては合格のしおりに、また、全HR教室内に掲示をして周知している。</p> <p>○ご努力されているのはよくわかりました。教職員アンケートで教職員が問題を感じているのはよいこと。自由記述欄など工夫をして細かく聞くべきでは。</p>

府立佐野工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎的・基本的な学力と技術・技能を定着させる学習指導の推進	<p>(1) 基礎学力の早期定着を図るため、教科横断的な授業を展開するとともに、授業規律の徹底を全教員で実践する。</p> <p>(2) 少人数授業等を導入し、「魅力のある授業」・「わかる授業」をめざし、授業アンケート結果等も踏まえて、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 授業公開・研究授業などを充実させ、授業内容や指導方法の改善を図る。</p> <p>(4) カウンセリングマインドを有し、生徒が気軽に相談できる教員の体制づくりをめざす。</p>	<p>(1) 基礎学力の定着に向けた、早朝学習と放課後の補習授業の実施。 ・遅刻・中抜け・無断早退等の根絶。 (指導カードの活用)</p> <p>(2) 少人数授業等を行い、生徒一人ひとりに応じた指導をする。 (国語、数学、英語の3科目)</p> <p>(3) 授業見学や研究授業を組み入れた授業を実施し、授業力の向上を図る。 ・生徒の興味や関心を引き出し、学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した体験的な教材や指導法を研究・開発する。</p> <p>(4) 卒業後、社会人となるための職業指導を推進している結果、生徒指導は厳しくなるが、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行う。</p>	<p>(1) 3教科(国・数・英)の補習 130回以上(H28 137回)</p> <p>入学満足度 65%以上(H28 64.9%)</p> <p>(2) 登校満足度 65%以上(H28 62.3%)</p> <p>授業理解度 70%以上(H28 73.1%)</p> <p>(3) 授業見学会 2回以上実施(H28 2回実施) 教員の参加数 220回(H28 210回) 授業改善研修 2回以上(H28 2回実施)</p> <p>(4) 生徒相談満足度 50%以上(H28 50.8%)</p>	<p>(1) 3教科(国・数・英)の補習 139回(○) 国;44回数;51回 英;44回 入学満足度 72.0%(◎) 学校教育自己診断「この学校へ入って良かったと思う」</p> <p>(2) 登校満足度 68.1%(◎) 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」 授業理解度 76.2%(◎) 学校教育自己診断「普通科目の授業はわかりやすい」「専門科目の授業(座学)はわかりやすい」「実験・実習などの授業はよく学習できている」3項目平均</p> <p>(3) 授業見学会(◎) 教員の参加数 264回(◎) 授業改善研修(◎) 初任者4名が各学期に1回ずつ実施</p> <p>(4) 生徒相談満足度 61.8%(◎) 学校教育自己診断「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」</p>
2 生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育の推進	<p>(1) 教育の質の向上、質の保証が求められる中、工科高校における新たな教育を探求し、産業財産権を含めた「ものづくり教育」を通して専門性を高め、産業基盤を支える技術と技能など工業技術の進歩や実用新案権などに対応できる能力を育成する。</p> <p>(2) 正しい勤労観・職業観を育成するために、「キャリア教育」・「職業教育」の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を育成する。</p> <p>(3) 支援が必要な生徒については、「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成して校内の支援体制を充実させて、「わかる授業」の推進を図る。</p>	<p>(1) ものづくり教育を推進するため、実用新案権の学習とともに、機械加工技能士、電気工事士、色彩検定、情報処理能力検定などの資格取得に取り組む。 ・ものづくりに関する競技に積極的に参加出場する。</p> <p>(2) 学校設定科目である1年「キャリアプランニング」、2年「キャリア実現」を活用して、正しい職業観・勤労観や各種の職業に関する知識の理解を深め、進路の自己選択につなげる。 ・進路に関する講話などを計画的に行い、校内体制の見直しにより進路指導部が中心となって2年担任団・専門系と連携し、インターンシップや企業見学などで職業観・勤労観を育成し、進路選択の情報提供を充実させ、進路決定の意識を向上させる。</p> <p>(3) 各分掌や教科担当者と担任団が連携し、学習支援や相談機能を充実させ、「魅力のある授業」・「わかる授業」の確立と中途退学者の防止を図る。 ・校内の情報システムに関わる個人情報取扱い等の研修を実施する。 ・特別支援委員会を活用して、生徒の問題の早期発見と解決を図る。</p>	<p>(1) ・資格取得者数 700名以上(H28 808名) ・コンテスト応募件数 30件以上(H28 30件)</p> <p>・近畿大会・全国大会入賞(H28) マイコンカー全国大会出場 エコデンカー全国第9位</p> <p>(2) 三者面談 3回以上(H28 3回実施) 進路講話 5回以上(H28 5回実施) インターンシップ参加者 就職希望者の過半数(H28 118名) 就職1次合格率、工科高校の合格率順位 75%以上、工科3位以内(H28 87.8%、第1位)</p> <p>(3) 教員研修 4回以上(H28 6回実施)</p>	<p>(1) ・資格取得者数(◎) 782名 ・コンテスト応募件数 64点(◎) *大阪府学生科学賞 1点 最優秀賞(大阪府教育委員会賞) *日本学生科学賞 1点 *大阪府児童生徒発明くふう展 7点(日本弁理士会近畿支部長賞・奨励賞1点・入選1点・学校賞) *全日本学生児童発明くふう展 3点 *イオンde文化祭ロゴコンテスト6点(チラシ原案として採用) *全国高校生ビジネスアイデア甲子園1点 *デザインパテントコンテスト 20点 *毎日DASデザインコンテスト 6点 *高校生デザインコンテスト2018 18点出品(ジュエリー部門 入賞1点) *全国高校生鉄道模型コンテスト 1点 ベストオブプレゼンテーション賞 ・近畿大会・全国大会入賞(◎) *全日本ロボット相撲大会近畿大会高校生の部 自立型2台 ラジコン型2台出場(ラジコン型 第3位) *全日本ロボット相撲全国大会高校生の部 ラジコン型 1台出場(16位) *ジャパンマイコンカーラリー近畿大会 Advancedクラス3台出場(準優勝、ベスト8、団体戦準優勝) Basicクラス4台出場(団体戦3位) *ジャパンマイコンカーラリー全国大会 Advancedクラス 2台出場 Basicクラス 1台出場(21位) *エコデンレース2017 2台出場(8位全国自動車研究会会長賞、19位) *高校生ものづくりコンテスト大阪大会旋盤作業部門 2名出場(第3位入賞) *大阪府高校生溶接コンクール 5名出場(2名 優秀賞)</p> <p>(2) 三者面談(○) 6月・7月(3年生のみ)11月実施 進路講話 5回(○) ・4/8、4/26、7/28、8/24、9/6実施 インターンシップ参加者(△) 12社 23名(就職希望者171名) (企業見学会の実施。卒業生の就業先として関係の深い地域の企業数社に、279名参加) 就職1次合格率、86.3% 工科高校の合格率順位工科3位(○)</p> <p>(3) 教員研修 5回(○) グローバル人材(全定) 5/23 自傷行為の対処(校長) 7/6 面接指導研修(進路) 7/12 働き方について(安全衛生委員会) 10/17 救命講習(保健) 12/6</p>

府立佐野工科高等学校

<p>3 基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成</p>	<p>(1) 家庭と連携した望ましい基本的な生活習慣の確立と、社会性や規範意識、公共心をはぐくむ規律指導を徹底する。</p> <p>(2) 中学校や地域の関係諸機関と連携し、生命・安全・人権等に関わる指導を充実する。</p> <p>(3) 部活動や学校行事等の活性化を図り、安全で安心な学校づくりに努め、生徒の愛校心を育成する。</p> <p>(4) 生徒課題の早期発見と家庭との連携を深め、中途退学者の減少を図る。</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立するために、担任団と生活指導部が連携し、学年別の生徒情報交換会で課題のある生徒の情報の共有化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則遵守を徹底し、日常的に全教員が頭髪、服装、携帯電話等についての指導を行う。また、定期的に全校的な指導を実施し、規範意識の向上を図る。 ・日常的なHR担任による遅刻・欠席指導だけでなく、月初めの一週間「朝の校門指導」を実施する。 <p>(2) 中高連絡会に参加し、生徒情報の収集と活用を努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講話など実施して、落ち着いた学習環境と他の人を尊重する心を養う。 <p>(3) 個々の生徒の特性に応じた部活動への加入を勧め、全学年において、教員と生徒のつながりを深めるとともに学校への愛着心を持たせる。</p> <p>(4) 課題のある生徒について、教員間で情報共有を行い、家庭との連携を密にして、育成に努める。</p>	<p>(1) 生徒情報交換会 全体2回、個別1回 (H28 全体2回、個別2回)</p> <p>指導件数 20件以下(H28 11件19名)</p> <p>遅刻回数 850件以下(H28 861件)</p> <p>(2) 中高連絡会 7回以上 (H28 9回実施)</p> <p>外部講師の講演会 3回以上 (H28 4回実施)</p> <p>(3) クラブ加入率 50%以上(H28 50.1%)</p> <p>(4) 退学率 2%未満(H28 3.30%)</p>	<p>(1) 生徒情報交換会 (○) 全体2回、個別1回 6月学年別教科担当者会議実施(6/5・6・7) 10月学年別教科担当者会議実施 (10/30・31・11/1)</p> <p>個別情報交換会 4回 指導件数 20件 (○) 遅刻回数 1073件 (△)</p> <p>(2) 中高連絡会 (○) 生活指導 5回 保健人権部 5回 外部講師の講演会 (◎) 保健人権部 5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/7「薬物乱用防止」2年生 ・6/28「国際・異文化理解」2年生 ・10/4「障がい者理解」1年生 ・10/25「DV防止」3年生 ・1/17「性感染症」1年生 <p>(3) クラブ加入率 (△) 42%</p> <p>(4) 退学率 (△) 2.94% 23名/783名</p>
<p>4 地域と連携した広報活動の充実と開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 入試状況を踏まえた中学校訪問や学校説明会を実施し、離職率調査を踏まえた企業訪問を行う。</p> <p>(2) 「地域産業連携重点型」工科高校として、『地域の宝』をスローガンにして、地域企業との連携や、行政組織・民間団体と連携してイベントに参加し、生徒のものづくり技術やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、活動成果を情報発信する。</p> <p>(3) 校内のICT化を推進し、効率的、効果的な情報発信をおこなう。</p>	<p>(1) 中学校訪問に加え、学校での説明会の回数を増やし、本校の魅力に触れる機会を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離職率調査の結果も踏まえ、企業訪問を実施し、今後の「キャリア教育」「職業教育」に生かす <p>(2) 地域企業と連携し、ものづくりにおける技術力の向上を図る(インターンシップを除く)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政機関や民間団体と連携し、様々なイベントに参加して、ものづくりへの関心を高める。 ・地域の企業や中学校の教員、本校PTAを招いて、学校全体で3年生の「課題研究発表会」を実施する。 <p>(3) 教職員のICT環境を整備し、情報共有の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な時期に応じた学校PRを行い、学校Webページに情報発信する。 	<p>(1) 学校説明会等回数 3回以上 (H28 2回)</p> <p>企業訪問数 50社以上 (H28 85社)</p> <p>離職率 35%未満 (H28 30.7%)</p> <p>(2) 企業等連携 15社以上 (H28 16社)</p> <p>学校PR 8回以上 (H28 15回実施)</p> <p>課題研究発表会 企業・中学・保護者等の来場者数 10%増員 (H28 92名)</p> <p>(3) ICT パソコンを用いた校内情報共有体制の構築。 学校Webページの更新 80回以上 (H28 83回)</p>	<p>(1) 学校説明会等回数 (◎) 校内7回 5/26, 7/28, 9/28, 11/18, 12/16, 1/20, 2/17 校外8回 7/8, 7/16, 7/23, 8/26, 10/28, 10/29, 12/25 2/16</p> <p>企業訪問数 (◎) 87社</p> <p>離職率 (△) 39.8%(平成25年度卒業生)</p> <p>(2) 企業等連携 (○) 11件</p> <p>学校PR (◎) 14回</p> <p>課題研究発表会 (△) 来場者数 55名 (来賓9、企業30、保護者16)</p> <p>(3) 学校Webページの更新 (◎) 全教員に学校情報ネットワークと統合ICTのネットワークケーブルを設置</p> <p>学校WEBページ更新 95回 (校長ブログを含む)</p>